

桜蔭俳話会 十月句会 (第三二九回)

平成二十六年十月十八日(土)

吟行(赤レンガ倉庫・象の鼻・横浜大栈橋)

| | | | | |
|-----|------------------|-----|-----------------|-----|
| 4点 | 酸化鉄滲む倉庫や秋気満つ | 明美 | 十月の明るき空に子らの声 | 邦子 |
| 3点① | 象の鼻てふ岬歩けり鯨日和 | 友子 | 秋晴れに佳き日迎へる夫婦かな | 眞壽 |
| 3点① | 秋潮や渡航歴なきパスポート | 明美 | 秋の街煉瓦と並ぶビルディング | 邦子 |
| 3点 | 発電の風車空切る秋の蝶 | 秀一 | 穀物船地球の裏より暮の秋 | 明美 |
| 3点 | シーバスの重油の匂ひ秋運河 | 守 | 秋澄んで昔なつかし大栈橋 | 眞壽 |
| 2点① | 氷川丸遠き旅終へ秋深し | ツル子 | 赤レンガ喉越感じドイツビール | 直子 |
| 2点① | 祝福や大栈橋の高き空 | 才美 | 氷川丸日章旗揺れ天高し | ヤエ子 |
| 2点① | シーバスのガードくぐるや赤とんぼ | 秀一 | 秋風に乗つて届けよ汽笛かな | 邦子 |
| 2点① | 向きあひてさらふウクレレ海桐の実 | 秀一 | 鷗飛ぶ横浜港に波飛沫 | 直子 |
| 2点 | 象の鼻元防波堤ここにあり | 直子 | 鯨日和方程式の解二つ | 守 |
| 2点 | ぶたくさやビールフェスタへ長い列 | ヤエ子 | うすもみぢ三三五五の港町 | 弘子 |
| 2点 | 秋つばめ人影見えぬ観覧車 | 秀一 | タンカーの海境に消ゆあと秋空 | 才美 |
| 2点 | 観覧車ゆつくり回す秋日和 | 弘子 | 潮の香を胸いつばいに小鳥来る | 友子 |
| 1点① | 秋光やシルクロードの海に尽き | 守 | 外国の香る横浜秋の風 | 邦子 |
| 1点① | ジャズ流る路地に浮塵子と船員と | 明美 | 秋気嗅ぎぬし税関の麻薬犬 | 明美 |
| 1点① | ジャズ似合ふ赤煉瓦倉庫ハマの秋 | ヤエ子 | 氷川丸日の丸国旗秋風吹く | 直子 |
| 1点① | 赤れんがに沁みる史のあり天高し | 友子 | 秋晴れに吹かれて望む港町 | 眞壽 |
| 1点 | 秋潮のほかは触れへぬ象の鼻 | 才美 | 日章旗の白ばかり見て秋日和 | 才美 |
| 1点 | 束の間のシーバス秋の旅心地 | 弘子 | 栈橋の足にやさし板秋日照る | ヤエ子 |
| 1点 | 音のなき引き船忙し秋の海 | ツル子 | 車窓からぬくもり感じる秋日差し | 邦子 |
| 1点 | 煉瓦倉の明治魂秋高し | 才美 | 秋風やシーバスエンジン心地よく | 直子 |
| 1点 | 秋空と港の間銀の橋 | 弘子 | 秋風に賑わい楽し赤煉瓦 | 眞壽 |
| 1点 | 秋の潮黒く光りてビル浮かぶ | 眞壽 | 秋光や遠近法の中の街 | 守 |
| 1点 | 秋天のジャックの時計十一時 | 幸 | (不在投句 古野明美、稲葉幸) | |
| 1点 | 象の鼻くすぐる潮の爽やかさ | ツル子 | | |
| 1点 | 三塔の見える位置へと落葉道 | 幸 | | |
| 1点 | 栈橋の鯨のせなに秋の風 | ツル子 | | |
| 1点 | 秋の日の跳ねて倉庫の赤レンガ | 守 | | |
| 1点 | 青北風や甲板上の深呼吸 | 友子 | | |
| 1点 | 沖合の風力発電秋高し | ツル子 | | |
| 1点 | 秋寂びて賓客迎へし木像嵌 | 幸 | | |

〔事務局からお知らせ〕

○十一月の句会

・日時 十一月十六日(日)午後一時から

・会場 旭区民文化センター・サンハート

(相鉄線二俣川駅ライフ五階)

○十二月の句会

・日時 十二月二十一日(日)午後一時から

・会場 旭区民文化センター・サンハート

※

雲探す秋の港のまぶしめり 弘子
 栈橋から三百六十度絶景秋の空 ヤエ子
 鯨の潮汽笛残せし巡視船 秀一
 観覧車へ反射の秋日船の旅 友子

〔旭区俳句会作品展〕
 十一月十日から十七日、サンハートギャラリー
 で(十一日は休館)。当会から十三人参加。